

しゃ しん み せ かい 写真で見る世界の 子どもたちのようす アフリカの子どもたち し じょう しゃ ユニセフ紙上写真展

今年9月末に、東京でひらかれた「第3回アフリカ開発会議」という大きな国際会議をきっかけに、ユニセフハウスでは、「今、アフリカで起きていること」という展示がおこなわれています。今回は、そこで展示されている写真を中心に、今アフリカの子どもたちのようすを伝える、いろいろな写真をご紹介します。この号でもアフリカの話題を取り上げていますが、写真ではどんなことが見えてくるでしょう？

※ユニセフハウスでのユニセフ展「今、アフリカで起きていること」は2004年11月末までひらかれています。その後、全国各地でひらかれる予定です。

ケニア

はしかの予防接種を受ける子どもたち。2002年6月にケニアで行われたはしかの全国予防接種デーでは、生後9ヶ月から14歳までの子ども、およそ1,400万人が予防接種を受けました。はしかが流行しないようにするには、予防接種の割合を95%以上にまで高めなければなりません。

©UNICEF/HQ02-0245/Thierry Geenen



ボリオのワクチンも満たす子どもたちに落とされます。ボリオの予防接種は注射ではなく、口からワクチンを入れてもらいます。戦争が長くつくつコントローラー共和国でも、2000年に、1,100万人の子どもを対象に大きなボリオ予防接種キャンペーンがおこなされました。予防接種員は一針一針をまわって、予防接種を受けていない子どもがいるかどうかを確認しました。

©UNICEF/HQ00-0679/Radhika Chalasan

コンゴ民主共和国

予防接種用のボリオのワクチンを運ぶ予防接種員。遠い村の子どもたちにもワクチンを届けるため、アフリカ各国で、川や川を越え、多くの人が協力しています。

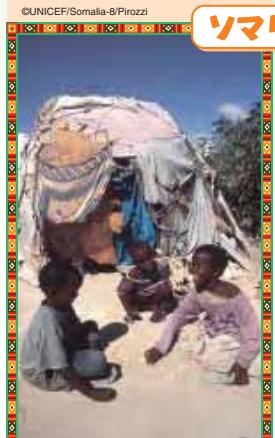
©UNICEF Angola



戦争から逃げてきた避難民が集まるキャンプで暮らす子どもたち。12年も政府がないままのソマリアでは、各地で氏族と呼ばれる勢力どうしの争いがつづいていて、国全体が避難民キャンプのようになっています。

©UNICEF/Somalia-B/Pirozzi

ソマリ



アンゴラ

予防接種用のボリオのワクチンを運ぶ予防接種員。遠い村の子どもたちにもワクチンを届けるため、アフリカ各国で、川や川を越え、多くの人が協力しています。

©UNICEF Angola

スーダン

元子ども兵士だった子どもたち。解放され、保護キャンプに向かいます。スーダンでは、北部の政府と南部の政府に反対する勢力が戦争をつづけ、多くの子どもたちが兵士として使われています。解放されても、親のもとや住んでいた村に帰るのがむずかしい子どもも多いです。保護キャンプでは、平和な生活にもどるためのさまざまなプログラムをおこない、帰るところのない子どもたちも教育を受けたり、社会で暮らしたりできるように手助けしています。

©UNICEF/Sudan

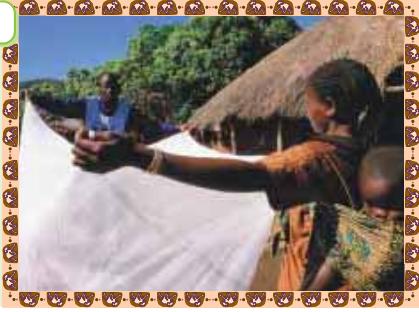


ミ
ひなみ
避難日
経験を
二人の
に仕
すこと
©UNI

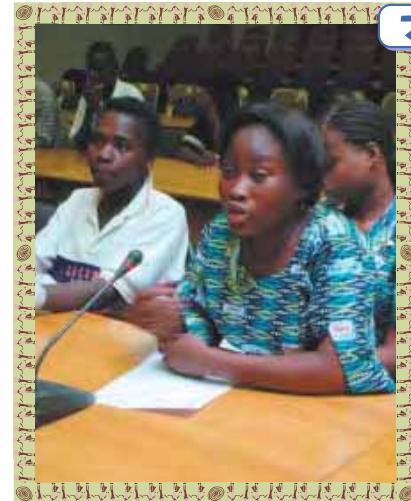
ザンビア

マラリアを防ぐ蚊帳を広げる家庭。全世界でマラリアで亡くなる人は年間100～300万人。その90%はサハラ砂漠より南のアフリカの人びとで、アフリカ全体では、マラリアで30秒にひとりの子どもが亡くなっています。マラリアのワクチンはまだ開発されていません。病気のものを運ぶ数に刺されないように、蚊帳を使うことがもっともよい予防法です。ユニセフは、受け手に入り、手入れがかかる蚊帳を広めています。

©UNICEF Zambia



ブルキナファソ



子ども国会で発言する子ども議員。ブルキナファソの子ども議員には、各地の地方子ども議員の議員代表団100人（男女50人ずつ）が集まります。ここで話し合われたことは、国の政策を決めるおとなたちに直接伝えられています。

©UNICEF/WCAR/Kent Page



シエラレオネ ブルキナファソ コートジボワール



ソマリ





エラレオネ

キャンプにある学校で、戦争のときの話をきく子どもたち。棒を鏡に見立てて、少年が歌を歌っているようすをみています。つらい思い出を心の外に出が、心の傷をなおすことにつながります。

©UNICEF/HQ01-0140/Roger Lemoyne



ソマリア

男の子と女の子の間の不平等が大きいところでは、女の子に通わせるための苦労も大きいものです。しかし、いったん女の子が学校に行くようになると、そのことが地域や社会に大きな変化をもたらします。

©日本ユニセフ協会/Mizuguchi

モスマヨ域のユースセンターの開所式で、おしゃべりをしてHIV/AIDSの知識を広める若者たち。娘をイーズで亡くして泣きなげな母親を演じるのは17歳の少女。ユニセフは、若者の身がHIV/AIDSを防ぐ知識を学んだり、伝え合ったりする活動を応援しています。

©UNICEF/HQ02-0316/Roger Lemoyne



タンザニア



ジンバブエ

女性ボランティアのカウンセリングを受けるお母さんと娘。41歳のお母さんはすでにエイズで発病して、はたらくことができません。かたわらで13歳の娘がお母を取りながら話を聞いています。この女の子は、学校の費用が払えないために、学校には通っていません。

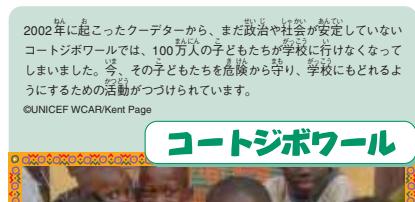
©UNICEF/HQ02-0315/Giacomo Pirozzi



スーダン

戦争がつづくなか、地雷で足を失った子どもたち。

©日本ユニセフ協会/Shindo



コートジボワール

2002年に起きたクーデターから、まだ政治や社会が安定していないコートジボワールでは、100万人の子どもたちが学校に行けなくなってしまいました。今、その子どもたちを危険から守り、学校にもどれるようにするための活動がつづかれています。

©UNICEF WCAR/Kent Page



コンゴ

爆弾や地雷について教えてもらう子どもたち。アフリカには、戦争のために地雷や不発弾がたくさん残っていて、多くの子どもたちが被っています。地雷を見たときにどうしたらいいかを小さいときからしっかり知っておくことが大切です。

ICEF Angola

モザンビーク

洪水のために避難してきた40万人が暮らすキャンプの中の水場に集まる女性や子どもたち。こうしたキャンプでは、子どもを病気や死から守るために、安全な水がもっと大切です。

©UNICEF/HQ02-0157/Giacomo Pirozzi



ジンバブエ

干ばつ（雨がふらず大地がかわきてしまい、作物もつくれなくなってしまうこと）のためには、あればてたとうもろこし畑にたたずむ男の子。アフリカ南部の国々では、干ばつが広がって食糧が不足しています。また、HIV/AIDSが広がって、はたらきざかりの人がたくさん亡くなっているために、被害から立ち直ることがむずかしくなっています。

©UNICEF/HQ02-0277/Giacomo Pirozzi